

講義名	財務分析論			授業形態	
担当教員	木村 敬夫 / 木村 敬夫		開講期・曜日・時間	後期 金曜日 1 時限	
			単位数	2	履修開始年次

### 主題と概要

「分析」とは、「対象」とする主体の事象内容、性質などを明らかにするために、一定の視点のもと（ものの見方）に、対象を一定の構成要因・説明変数に分解し、それぞれの要因の特質を説明・評価し、最後に、その分解した要因を「総合」（被説明変数）し、点数などを付すこと（評価）である。

「財務分析論」は、対象を（常例）「企業」（株式会社）とし、「財務の視点」（資本調達・資本運用）に立脚する。視点を確立するために、証拠（資料）を必要とする。財務分析は財務の視点に立つ証拠（資料）をもとに、対象を評価を下す方法論・技術論である。この証拠は財務の視点に立脚して蒐集、集約される「財務情報」（財務データ）である。財務情報は、一定の枠組にもとづき定量的（価値・物量）に測定された客観的なデータである。

現在、「企業」の経済・事業活動を「財務（価値）データ」に変換する枠組が「企業会計」である。したがって、財務分析は定量情報、主に価値（価格）変換された財務資料、企業会計の枠組で認識、測定・報告される情報（財務報告書）に依存することになる。企業会計が提供する資料・データを分析し、判断し、それを評価値に変換し、一定の総合評価を下すことになる。企業会計情報は「企業」分析に「評価」する資料として完全ではない。財務資料の限界が財務分析の限界とも言えるのが現状である。

財務分析には特に価値評価に転化された「財務情報、財務数値情報」を利用する。「企業」を評価するためには、財務情報以外に、非財務情報を補足・補完しなければならない。社会情報、環境情報などが開示（欧州などでは制度化されている）されている。非財務情報を企業の「業績」評価に利用することは、主観的判断をともなう。しかしながら、非財務情報（定性情報）を利用した定性分析を加えることで、現在の「企業分析」（企業評価）を行うことが可能となる。

講義、財務分析論は、「企業」を財務の視点から評価する方法等を学修することにある。実際の企業、主に、株式会社・上場企業）を事例として取り上げながら、受講者に、企業を見る「一視点」を提供する。

### 到達目標

受講者が「企業」（会社・株式会社）の現状を、主に、財務情報を利用して「財務」の視点（資本の調達・運用とその結果の評価）から理解、判断する知見、知識体系を得ることができる。

### 提出課題

考えていない。

### 課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバックの方法

提出課題があった場合、登壇、講義で解説し、返却する。

### 評価の基準

評価は、中間試験（50点）と定期試験（50点）の合計で判定する。

### 履修にあたっての注意・助言他

財務分析論は「企業」の行動の説明を財務の視点からの検証を学ぶことから、経済学、経営学、会社法、簿記原理、会計学、管理会計、財務管理等に関連する。受講学生は、上記の学修を履修する。今後、履修することも推奨する。講義は、実際の企業（会社・株式会社）の財務行動を例に取り、この行動を財務情報等にもとづき財務（資本調達、資本運用、企業評価）の視点から企業を判断する視点に着う。講義は知識体系にもとづき、一回一回積み上げて体系を成す。講義はトピックではなく、途中から、講義に参加しても理解は困難、不可能である。単に「単位取得」を目的として履修することは避けるべきである。結果として、例年、多数の履修者が途中放棄する。企業の財務分析を行うためには、既存の知識で理解不可能である。事前に配布資料、関連書籍を読了する等自分でやらなければ、新たな知見を得られないと考えてもらいたい。

### 教科書

・配布プリント。

### 参考図書

### その他

講義資料「財務情報分析講義」（2018年度M4で1頁43字×33行、約280頁になる予定）を、講義テーマ別、講義前に期間限定でポータル（PDF形式）に公開する。また、講義進行内容を示す、スライド資料、講義資料をも配布する。しかし、スライド資料は、講義内容の進行を示すだけで、これだけで講義内容を理解することは不可能である。したがって、スライド資料だけを持込、試験で点数を取ることも不可能である。

本田圭子監訳『企業価値評価』（上・下）ダイヤモンド社  
杉本・井上・堀浦訳『財務諸表分析と証券評価』白根書院  
山根・太田・村上『第4版ビジネスアカウンティング』中央経済社

### 授業計画

- 第1講 財務分析の目的・目標
- 第2講 財務情報と企業会計
- 第3講 財務分析のデータ
- 第4講 財務分析のデータ
- 第5講 財務分析の枠組み
- 第6講 財務分析の方法
- 第7講 収益性分析（費用収益分解）
- 第8講 流動性分析（経営破綻）
- 第9講 キャッシュフロー分析
- 第10講 有利子負債分析
- 第11講 資本構成、利子率と利益率
- 第12講 資本構成と資本コスト
- 第13講 財務情報と企業収益
- 第14講 企業評価値（1）：EVA、MVA等
- 第15講 企業評価値（2）：証券価格、市場評価

### 授業形態（アクティブ・ラーニング）

ア：PBL（課題解決型学習）	イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
ウ：ディスカッション、ディベート	エ：グループワーク
オ：プレゼンテーション	カ：実習、フィールドワーク
キ：その他（A-L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）	

### 準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

事前に講義テーマに関連資料、参考書等を読了し、講義内容を講義室で配布される資料を加えて各2時間の学修を必要とする。

### 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

企業経営に求められる財務情報を知り、その情報をもとに経営戦略の策定を担うことから、特に経営戦略と会計コースを念頭におく。

### 双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

### 実務経験の有無及び活用

### 備考